

平成 25 年度当初予算 選択・集中プログラム取組概要

緊急課題解決 2 命と地域を支える道づくりプロジェクト(主担当部局:県土整備部)

プロジェクトの目標

社会基盤である幹線道路等の整備を進めることにより、大規模地震や異常気象による集中豪雨等の自然災害の脅威に対して地域の安全・安心を支えるとともに、北・中部地域の産業、南部地域の観光など地域の今ある力を生かした新しい三重づくりが進んでいます。

プロジェクトの数値目標

目標項目		H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
命と地域を支える道の供用延長	目標値	-	86.8km	129.7km		147.8km
	実績値	74.6km				

各指標のH23 年度数値は現状値

目標項目の説明

県内の高規格幹線道路や主要な直轄国道、地域高規格道路、アクセス道路の供用延長

進捗状況(現状と課題)

- 高規格幹線道路および直轄国道に関して、提言活動などにより事業主体である国や中日本高速道路(株)に対し、整備促進を強く働きかけるとともに、関係府県や市町等と連携して必要性をアピールする、シンポジウムや大会などの開催により整備機運の盛り上げを行いました。
- 地域と一体となった国などへの粘り強い働きかけにより、紀伊半島のミッシングリンクの解消に向け、熊野尾鷲道路(二期)が新規事業化され、大泊～新宮間については事業化に向けた調査に着手し、ルート案が示されるなど大きく前進しました。また、新名神高速道路においては亀山西ジャンクションのフルジャンクション化や鈴鹿PAスマートICの連結が決定されました。さらに、地域高規格道路磯部バイパスが補助事業として新規事業採択されました。
- 自然災害の脅威は今後一層深刻化することが予測され、地域の安全・安心を支える幹線道路等の整備が急がれています。また、交通渋滞が頻発している現状に対し、集積する産業や魅力ある観光など地域を支える幹線道路等の整備が求められています。

平成 25 年度の実行方向

災害時の復旧・復興を担うとともに、式年遷宮を契機とした県内外との交流連携の促進に向け、25 年度供用予定の紀勢自動車道(海山～紀伊長島)熊野尾鷲道路(三木里～大泊)紀宝バイパス、第二伊勢道路や四日市湯の山道路(高角～吉沢)の整備を進めるとともに、これらに合わせて供用するアクセス道路等の整備を推進します。また、「新たな命の道」として地域の悲願でもある紀伊半島のミッシングリンクとなっている未事業化区間(大泊～新宮)の早期事業化に取り組みます。

交通需要への対応と交通渋滞の解消および、災害時の緊急輸送や代替ルートの確保に向け、新名神高速道路、東海環状自動車道、北勢バイパスや中勢バイパス等の事業化区間の整備促進を図るとともに、これらと合わせ幹線道路を形成する県管理道路の整備、桑名東部拡幅(伊勢大橋)の工事着手や北勢バイパスの未事業化区間の早期事業化に取り組みます。

主な事業

<実践取組1>「命を支える道づくりに向けた課題」を解決するために

県土整備部

命を支える道づくり事業

予算額：(24) 9,885,978千円 (25) 9,010,000千円

事業概要：県民の命と暮らしを守るため、緊急時の救助・救援、災害時の復旧・復興を担う「新たな命の道」としての幹線道路およびこれらにアクセスする道路の整備を進めるとともに、ミッシングリンクとなっている未事業化区間の早期事業化に努めます。

<実践取組2>「地域を支える道づくりに向けた課題」を解決するために

県土整備部

地域を支える道づくり事業

予算額：(24) 7,309,720千円 (25) 9,452,023千円

事業概要：集積する産業や魅力ある観光など、地域の今ある力を生かした三重づくりを支える基盤として、産業・観光活動に伴い増加する交通需要に対応し、交通渋滞の解消に資する幹線道路およびこれらにアクセスする道路の整備を進めます。